

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)四条大宮プロジェクト新築工	階数	地上5F
建設地	京都市下京区 高辻通猪熊西入十	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、15m第3種高度地区	平均居住人員	147 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年12月 0.0	評価の実施日	2013年9月3日
敷地面積	1,454 m ²	作成者	鷹取 大輔
建築面積	1,098 m ²	確認日	2013年9月4日
延床面積	4,509 m ²	確認者	杉尾 道朗



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★☆☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 73%
③上記+②以外の 72%
④上記+ 72%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.2

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4

視環境	音環境	温熱環境	空気質環境
3.0	2.8	3.7	4.4

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3

機能性	耐用性	対応性
3.8	3.0	2.8

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.8

生物環境	まちなみ	地域性
2.0	3.0	3.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.0

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0

建物の	自然エネ	設備システ	N. 効率的
3.0	3.0	3.1	

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8

水資源	非再生材料の	汚染物質
2.2	2.9	3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2

地球温暖化	地域環境	周辺環境
4.1	2.5	3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	敷地の東側が「歴史遺産美観地区」に位置し、歴史的町並みの形成のため瓦屋根の伝統的な形態の門・塀を設置し、道路際は緑化を努めた。建物に関しては美観地区から離れた位置に設置し、デザインに関しても邸宅を意識した高級感あるデザインとした。	
その他	0	
Q1 室内環境	室内環境の向上を目指し、F☆☆☆☆建材を採用している。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	劣化対策等級3など、耐久性に優れた建物としている。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	道路沿いに緑地を敷き、周辺地域への良好な住環境の形成に配慮した。	
LR1 エネルギー	屋上に太陽光発電設備を設置した。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	PC部材を極力採用し、型枠等の使用材料の抑制に配慮した。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	ゴミ置場を設置し、廃棄物処負荷抑制に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される